

アクションプログラムの進捗管理方法の変更(案)について

1 アクションプログラムの概要

「アクションプログラム」は、第五次行財政改革大綱に基づき重点的に取り組む具体的事項、改革目標、達成時期、指標等を明確化し、進捗管理を行うものである。掲載された取組については、3年目に中間評価(自己評価)による見直しを行うとともに、毎年度、各所属において検証、自己評価を実施し、上田市行財政改革推進委員会に報告している。

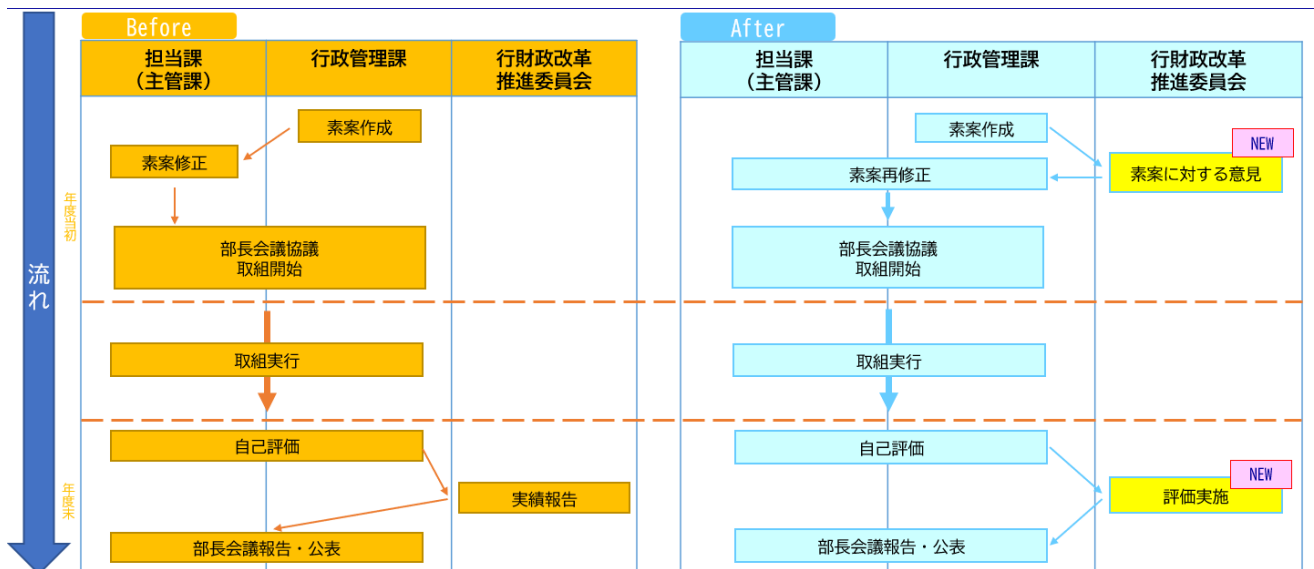
2 進捗管理方法の変更の経緯

平成 24 年 4 月「第二次上田市行財政改革大綱」に基づくアクションプログラムを策定して以降、上下水道における窓口業務の民間委託や、行政委員報酬の見直し、パブリックコメントの制度化など、一定の成果を収めてきた。

しかしながら、全ての取組が十分に達成されているわけではなく、実施に至らなかった事例や、自己評価基準の曖昧さなど、アクションプログラムの実効性及び客観性について、行財政改革推進委員会の委員から指摘を受けている。

加えて、人件費などの義務的経費の増加や社会保障関係費の増加など、持続可能な行政運営を確立することが急務となっていることから、行財政改革を強力に進めるため、アクションプログラムの実行性を高める仕組みづくりが不可欠となっている。

3 具体的変更内容



(1) 変更点

- ① アクションプログラムの各取組に対する行財政改革推進委員会の意見・要望の反映
- ② 行財政改革推進委員会による外部評価の実施及び結果の公表
- ③ 自己評価の変更(達成・未達成 → 達成・良好に進捗・課題あり)

(2) 期待される効果

- ① 外部の視点や市民目線の意見を取り入れることで、透明性の高い行財政改革を実現
- ② 外部評価の導入により、取組みに対する意識向上と実現性の確保

(3) 懸念される点

- ア 行財政改革推進委員会の委員の負担増による、委員選任への影響
- イ 失敗への恐れから、取組が保守的になり、先進的な取組みが抑制される懸念
- ウ 単年度実績が重視され、長期的な視点に立つ取組が敬遠されるおそれ
- エ 取組担当課の事務負担の増

4 外部評価実施方法

(1) 目的

- ア 評価の客観性や信頼性の向上
- イ 行財政改革に対する当事者意識の醸成と実効性の担保

(2) 対象の選定

次の選定基準を勘案し、行財政改革推進委員会正副会長と協議の上決定し、委員会に報告する。

- ア 財政改革への寄与度が高い取組であること
- イ 数値目標が明確で、定量的評価に適する取組であること
- ウ 市民の関心が高いと見込まれる取組

(3) 評価の視点

- ア 現状把握及び課題認識は的確か
- イ 実績報告及び分析は客観的かつ妥当か
- ウ 今後の目標設定が意欲的であり、効果が見込まれるか。

(4) 評価当日(行財政改革推進委員会当日)の流れ



① 担当課説明(10分)

取組担当課が、個票(仮)の記載内容について報告を行う。

② 質疑(15分)

委員の質問に対し、担当課が回答・補足説明を行う。

③ 意見交換(10分)

進捗状況や課題、今後の方向性について、評価視点に基づき、意見交換を行う。

④ 評価作成(15分)

委員が評価シートを作成し、事務局が集計する。評価点の合計と附帯意見を事務局がまとめ、委員に共有する。

⑤ 結果の公表

部長会議等庁内会議で報告後、市ホームページ等を通じて公表する。